

福岡県下の結果に見る 2024 年総選挙

3

九州大学大学院法学研究院

いずみ かおる
出水 薫

6

kizumi@law.kyushu-u.ac.jp

9 はじめに

福岡県＝全国の縮図：

県下 11 小選挙区＝全国 9 番目の小選挙区数、兵庫以西では最大

12 →人口増加都市・衰退産業「城下町」・農村など：今回の全般的な傾向の確認

個別選挙区事情の影響：自民の有力議員が複数存在し県連内で競合

15 1 福岡県下の結果

(1) 県下結果の全般的特徴

すべての選挙区で候補数が過去最多（同数を含む）＝候補乱立

18 自民の議席数減少継続：

14年 小選挙区：自民 11 比例復活：民主 1、維新 1、共産 1 →自民 11、野党 3

17年 小選挙区：自民 11 比例復活：希望 2、立憲 1、共産 1 →自民 11、野党 4

21 21年 小選挙区：自民 8、立憲 2、無（立憲系）1 比例復活：維新 2

→自民 8、野党 5

24年 小選挙区：自民 7、立憲 2、無（立憲系）1、維新 1

24 比例復活：自民 1、立憲 1、国民 1、維新 1 →自民 8、野党 7

(2) 自民の自滅

自民の得票減（前回対比、絶対得票率）：

27 1区-5.96p、2区-5.41p、3区-9.22p、4区-8.70p、5区-1.11p、6区-9.51p、7区-3.53

8区-2.79p、9区は非擁立、10区-6.49p、11区-6.79p

8選挙区で前回より投票率が下がる：自公の組織票が動員できなかった可能性

30 →現職の落選：鬼木誠（2区、比例復活）、武田良太（11区）

※投票率が下がれば与党に有利とは単純に言えない

(3) 野党共闘の変容

非共産共闘＝国民候補＋立憲非擁立：4区（比例復活）、6区（落選）

3 共産・社民共闘＝社民候補＋共産非擁立：4区（落選）11区（落選）

→共産は当初、全選挙区擁立方針を発表：

前回立憲共闘で当選選挙区は選別対応（5区非擁立、10区擁立）

6 (4) 維新後退

過去最多9選挙区で候補擁立＝新規に5選挙区で擁立

前回対比で得票減（絶対得票率）：1区-0.51p、2区-2.55、4区-1.29p、10区-2.59p

9 →現職（1区、前回比例復活）1名落選

※11区における「金星」：元経産官僚、3回連続挑戦（初戦は希望）で維新初公認

武田候補は不記載問題で党から処分を受けていた：「今回はおきゅうを据える」¹

12 比例九州ブロックも1議席で、4区の比例復活のみ

2 特徴的選挙区

15 (1) 4区

2014年・21年と維新が比例復活した選挙区

自民現職の宮内秀樹は11区の武田と同じ二階派：

18 不記載問題で公認だが重複立候補不可に

←従来から選挙区内の自民県議団と対立：21年選挙では県連が公認推薦を見送り

→武田と対立する麻生に近い6選県議の吉松源昭が立候補：自民分裂選挙へ²

21 連合福岡の仲介で候補一本化がおこなわれ国民から許斐亮太郎が立候補³

自民分裂を含む6人立候補の乱戦：

現職宮内が5選、国民の許斐と維新の阿部が比例復活で3人当選

24 ※同一選挙区3名当選は、福岡県下で14・17年も

(2) 9区・10区

2019年の県知事選挙で小川知事（当時）降ろしを麻生副総理（当時）が画策

27 →元厚生官僚の武内和久を擁立⁴

¹ 朝日新聞デジタル 2024年10月30日 (<https://digital.asahi.com/articles/ASSBY357KSBYTIPE01WM.html?pn=10&unlock=1&s=03#continuehere>)

² 西日本新聞 me2023年6月17日 (<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/1098800/>)

³ 西日本新聞 me2024年3月2日 (<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/1184731/>)

⁴ 西日本新聞 me2018年12月30日 (<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/476532/>)

→麻生 vs 反麻生の構図：小川知事が 3 選⁵

2021 年の衆院選、9 区・10 区で自民のいずれも 8 選現職が落選し引退→支部長空白

3 2023 年の北九州市長選：

自民市議団が元国交官僚を無所属（自民・立憲・公明・国民が推薦）で擁立

→県知事選で敗れた武田が完全無所属で立候補：麻生が間接支援、自民 2 市議も

6 →結局、武田が当選⁶

自民 9 区の支部長（予定候補）に造反市議の三原朝利が立候補

→対抗は自民参院議員の大家敏志（麻生派）：麻生が大家を断念するよう説得⁷

9 →県連は大家を推したが、党本部は認めず⁸：候補不在で不戦敗、三原は立候補

自民 10 区の支部長（予定候補）にも造反市議の大石仁人が立候補

→別の県議が公認：大石も無所属で立候補⁹

12 9 区は立憲系無所属現職が 4 選、10 区も立憲現職が 5 選し、対立候補の比例復活はなし

むすびに

15 2009 年・12 年政権交代における参院の与党過半数割れという与件

→今年の参院選の帰趨が大きく影響：自民への逆風は一過性か？

自民有力議員が複数競合していた福岡の特殊事情

18 →武田の落選と、麻生の「最後の選挙戦」¹⁰：自民県連内の力学が変動か

今回の第三極分散＝維新後退が、どのように展開するか？：

減税指向 2 党（国民、れいわ）への支持漸増

21 ※減税より富裕層課税＋再分配促進という路線が対抗軸に

⁵ 西日本新聞 me2019 年 4 月 8 日 (<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/500841/>)

⁶ 西日本新聞 me2023 年 2 月 7 日 (<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/1050494/>)

⁷ 西日本新聞 me2023 年 7 月 4 日 (<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/1103933/>)

⁸ 西日本新聞 me2023 年 11 月 17 日 (<https://www.nishinippon.co.jp/item/o/1146981/>)

⁹ 西日本新聞 me2024 年 10 月 14 日 (<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/1269683/>)

¹⁰ 西日本新聞 me2024 年 10 月 16 日 (<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/1270317/>)